

自然と生活環境の共生を旨として

Aiming for Harmonious Coexistence between Nature and Human Life



江原 実
EHARA Minoru

地球規模での経済的・環境的情勢が大きく変わりつつある中で、上下水道をはじめとする都市インフラへの期待も大きく変わってきており、これまでの社会資本として生活基盤を整備することから、快適な生活環境の構築、“持続性のある成長”を支え、環境とエネルギーを調和させる資源循環型システムの提供、災害に強い社会の仕組みづくりなどへと多様化しています。

上下水道施設では、病原性微生物の危険性が注目されて、より安全で良質な水の供給を行うことと水資源の有効利用のために、脱リンや脱窒素を行う高度水処理、広域水運用管理などへの取組みが行われています。また、水環境保全のために、オゾン発生器、遠心薄膜汚泥乾燥機、紫外線ランプ消毒装置、バイオリアクタなどのコア技術が開発・実用化されています。

都市インフラについては環境調和型システムがますます重要となり、太陽光発電、未利用エネルギー活用プラント、消化ガスを利用した燃料電池などの省エネルギー関連技術の活用が促進されています。また、大震災の経験から水道・ガス・電気などのライフライン安定確保のための災害予知システムや、都市災害時の復旧活動支援システムが各自治体に導入されはじめています。さらに、環境対応、災害対策、医療・教育などの住民サービス向上を総合的に配慮した新しいコミュニティづくりの検討も各地域で進められています。

このように多様で広範囲なニーズを実現するためには、個人や家庭レベルにまで急速に普及した情報端末、双方向で多様な情報通信を実現するマルチメディア、宇宙開発にとどまらず通信・放送、観測、測位などに広く活用されるようになった人工衛星など、最新の情報通信技術が重要な役割を果たしつつあります。これらの情報通信技術を活用して豊かな生活環境を創造していくとともに、地球環境に大きな負荷をかけない環境調和型社会システムを構築していくことが、われわれの進むべき道であろうと考えます。

この特集では、自然環境との共生を旨とした当社の上下水道システムと都市システムを紹介いたします。